

浄土

monthly
JŌDO

May 2005

5



法然上人鑽仰会



平成6年6月号



平成6年7・8月号



平成6年9月号



平成6年10月号



平成6年11月号



平成6年12月号



平成7年1月号



平成7年2月号



平成7年3月号



平成7年4月号



平成7年5月号



平成7年6月号



平成7年7月号



平成7年8月号



平成7年9月号



平成7年10月号

浄土

2005/5月号 目次

ライブラリー浄土

偉なる我が法然上人 望月信亨 2

座談会

御法語を読み解く 真野龍海ほか 10

コラム 大室了皓 17

会いたい人 中村富士郎さん① 関 容子 18

連載 熊野古道に行く 第四回 森 清鑑 26

響流十方 林田康順 34

日本酒のことば 日本酒のじかん 藤原理加 38

シネマ随想 袖山榮眞 40

Jフォーラム 43

浄土誌上句会 選者=増田河郎子 44

マンガ「さっちゃんはネッ」..... かまちよしろう 47

編集後記..... 48



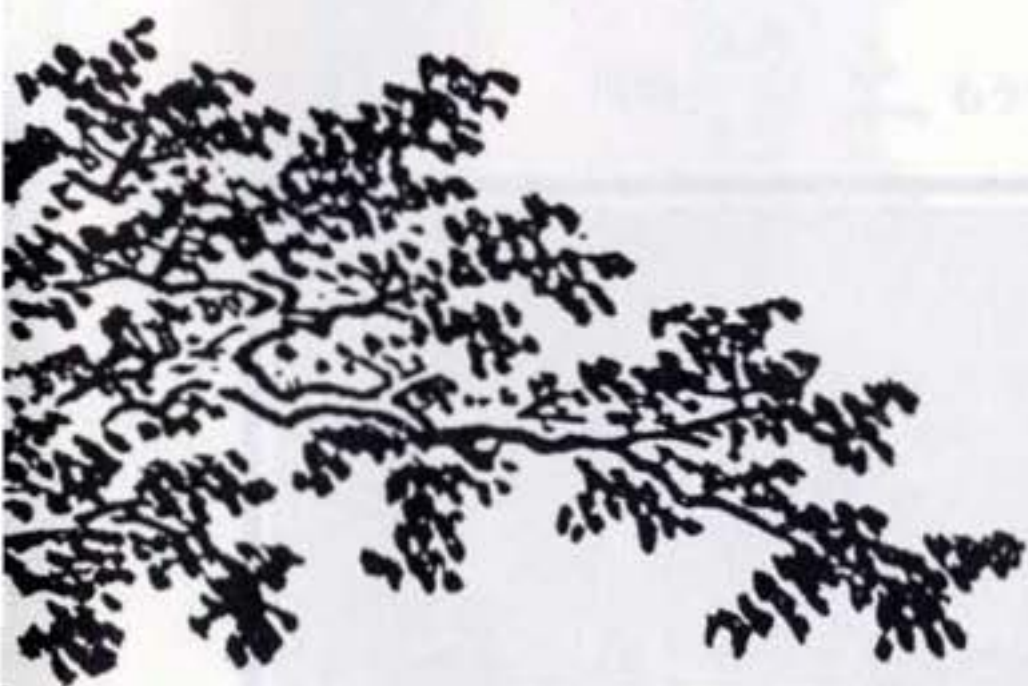
表紙題字=浄土門主 中村康隆猓下
アートディレクション=近藤十四郎
協力=迦陵頻伽舎

ライブラリー浄土

昭和10年8月号より

偉なる我が
法然上人

望月信亨



昔から偉人といわれ、英雄豪傑と称せられたものも少くないが、然し唯一時花々しい仕事をやつて、歴史上に其名を留めると云う丈けのものが多く、当代の人心を支配し、且つ後世に至るまでも感化を与えるという程のものは少い。其点になると宗教の教祖、派祖などという人は格別なもので、釈尊とか、基督とか、孔子とか、マホメットなどという人は、古来幾千萬人の精神を支配し指導し、今も尚崇拜の的となつてゐるのである。

日本に於ても多数の宗教家があり、宗派の開山開祖も沢山ある。皆それぞれの意味に於て偉人と云われ、崇拜されて居るが、其中法然上人は日本仏教の改革者であり、日本の国民的宗教の建設者であると云う点に於て最も其の偉大であることが認められる。

法然上人の誕生は長承二年四月七日で、平安朝の終り、源平時代の初めであつた。其時代の仏教というものは、大体に於て御祈祷仏教であつて、之を大にしては国家の為に祈祷し、旱魃には雨乞い、雨が降り過ぎれば止風雨、病氣には延命、難産には安産の御祈りと云う風に、何事に就ても御祈祷が行われた。是れは日本仏教の最初からの傾向であつて、主として薬師経、金光経の信仰から起つたのである。法隆寺の薬師如来は用明天皇の御病氣、釈迦如来は聖徳太子の御病氣平癒の為に造られ又薬師寺は天智天皇の御病氣の為に建てられたもので、共に薬師経の信仰であり、又四天王寺、東大寺等は金光明経の信仰から建てられたので、即ち金光明経を誦誦すれば国家が平安になると云うことから起つた。平安朝になつて伝教は比叡山を根拠として天台宗、弘法は真言宗を開いたが、是れ亦国家平

安の祈禱を主としたもので、叡山は鎮護国家の道場、東寺は教王護国寺と名づけられたのであった。

斯様に仏教を信仰すれば国家が平安になると云うので、皇室に於かせられて先ず第一に御信仰になり、それから息災延命が出来る云うので、貴族達も信仰し、寺領俸禄は給せられ、僧位僧官は設けられ、所謂寺は官寺、僧侶は官僧と云う有様であつた。其結果仏教は自然官僚式になり、又貴族的になり、且つ多くの寺領を賜つた所から漸次其勢力が増大し、寺同志の間に勢力争いが起り、遂に戦争をする様にも成つた。其中で最も勢力のあつたのは、奈良では興福寺、京都では比叡山であつて僧兵を蓄えて常に横暴を恣にし、朝廷に対して何か願ひ事があり、又は氣に入らぬことがあると、比叡山では其れが神意である云う意味で、日吉山王の神輿を担いで嗷訴する。興福寺では春日神社の神木を担いで京都へ出かけるという始末で、朝廷でも実に持余されたものである。白河天皇は朕の意の如くならざるものは、鴨川の水と、双六の賽と、山法師だと仰せられたということであるが、此御言葉から見ても、当時比叡山の山法師が如何に横暴であつたかを察し得るのである。

法然上人の誕生は即ち此の時代であつて、上人は父の遺言によつて出家し、十五歳の時比叡山に登られたのであるが、田舎に居られた時には、比叡山と云えば当時日本仏教の中心、鎮護国家の大道場と謳われた処であるから、立派な靈域であらうと子供心に憧れて居

られたのであるが、さて実際に其山に登つて実情に接して見ると、余りに予想に反して腐敗墮落が甚だしいので、大いに失望し、是れは眞の仏教ではない、却つて国家の爲に害のあるものだと考えられた。それから又祈祷をして果して病氣が治り、災難が払われたにしても、それは唯形の上の救で心の上での救でない。のみならず生者必滅であるから、人間と生れた以上は必ず死ななければならぬ。死後の問題は如何にすべきであらうか。

上人は若年ながら聡明であつたから、直に此点に着眼し、眞の仏道修行せんが爲に、十八歳の時に黒谷に隱遁し、叡空を師匠として真剣に學問を始め、それから南都などにも行かれて學者を訪問し、又一切經を五遍迄も読まれ、巖然頭角をあらわし、智慧第一の法然房、深広の法然房と呼ばれるに至つた。処が其時代の仏教は、一體に自力聖道門といわれた仏教であつて、即ち戒法を持して、すべての煩惱欲望を制し、心を澄まして坐禪觀法を行ひ、自分で悟りを開いて成仏すると云うのであるから、智慧第一の法然房にも其修行が容易でない。たとい又自分には其の修行が出来るにしても、一般の民衆には其の能力もなく、又時間もない。仏教と云うものは一般民衆の信仰となるものでなければならぬ。即ち一般民衆の誰れにでも理解され、誰れにでもが修行の出来るものでなければならぬ。學問をせねばならぬの、煩惱欲望を制せねばならぬのとすれば、それは一般大衆的のものでなく、特權階級の宗教にすぎないことになる。特に世が末になつて、悪人罪人が日を追つて多くなる時代であるから、其等の人々も悉く皆救われる教えでなくてはならぬ。自分の問

題であると同時に亦一般民衆の問題である。斯様な考えから上人は更に其鋭利な眼で聖教を御覧になり、いろいろ煩悶憂慮された結果、遂に四十三歳の時に至り、善導の觀經疏を見られて、始めて發見されたのが本願の念仏であつた。此念仏は別に學問も要らず、坐禪觀法も要らず、唯心に助け給えと思つて口に名号を稱するのみで救われるのであるから、如何なる人にでも行うことが出来る。又念仏には如何なる罪でも滅ぼす力があるから、是れが即ち仏の大慈大悲のあらわれであり、これが眞の仏教であり、一般大衆の仏教であるとして、上人は飛立つ様に喜ばれたのであつた。

上人は此念仏が見出された時、振返つて過去を見、實に感慨に堪えぬものがあつた。是迄は智慧第一の法然房であつたが、學問や智慧では信仰に入る事が出来ぬ、學問の行詰り、智慧の行詰り、思索の行詰りを自ら痛切に感ぜられた。浄土門に歸してから、愚痴の法然房、十惡の法然房となり、智者の振舞をせず、一文不知の愚鈍の身になして尼入道の無智の輩に同じうして、唯一向に念仏する身となられたのである。

斯くて上人の進路が開けて来たから、京都に下つて一般民衆の爲に其信仰を伝えられると、救世主のあらわれとして、我も我もと上人の庵室へつめかけ、御弟子も次第に殖え、九條兼実公を始め、公卿達も其教化に浴し、武士では熊谷直実、平重衡、宇都宮彌三郎などがあり、又鎌倉の尼將軍政子なども書面を以て教えを乞うという有様で、新宗の勢は旭日昇天の觀があつた。処が此の有様を見て比叡山や南都の僧達が黙つて居る筈もない。法

然の新宗は諸宗を滅すものであり国家を乱すものであるなど、いろいろの個条を列べて念仏の禁止、上人の処刑を朝廷に嗾訴したので、遂に七十五歳の時、浄土宗は禁止となり、上人は流罪となり、弟子の住蓮、安樂は死刑に処せられることになった。後四年を経て、上人は勅免を蒙り、建暦二年八十歳を以て、釈尊は四月八日誕生八十入滅、上人は四月七日降誕八十入滅で、実に奇しき因縁というべきである。迫害は唯生前に於てだけでなく、滅後十五年目には比叡山から大谷の墳墓を発きに来ると云うので、宇都宮彌三郎入道などが上人の遺骸を嵯峨に移すと云う騒ぎまで起った。宗教の改革者を蒙った事實は、基督にもルーテルにも又日蓮等にも見るのであるが、然し死後其の墳墓まで発かれるということとは他に類似がない。然し一旦民衆の上に植え付けられた新宗教の芽生えは、抑れば抑える程却て反発して、潜行的に深く人心の奥底に食い込み、念仏は遂に国民的大宗教となつて、八百年後の今日迄日本国民の思想を支配し、指導しつゝあるのである。

法然上人は普通に浄土宗の開山と云われているが、然し今日の七千ヶ寺余りの浄土宗の開山という訳では決してない。上人は所謂念仏の元祖であつて、今日の浄土宗は勿論、真宗も時宗も凡べて念仏を申す宗旨は、皆上人を元祖とするのである。選擇集の中に上人が自ら浄土宗を立てると云つて居られるのは、聖道門に対する浄土門の意味であつて、今日の所謂浄土宗だけを指したのではない、親鸞上人を真宗の開山とするのに対して、法然上人を浄土宗の開山とし、同格に取扱う様なことは元より妥当でない。上人は要するに日本

に於ける念仏の元祖であり、日本の国民的宗教の開祖であり、同時に亦舊仏教の改革者である。此点に於て上人の偉大さが始めて認められる。又上人が一たび仏教改革の急先鋒として立たれたので、其後鎌倉時代には続々として新宗が勃興し、幸い平安の舊仏教は漸次壊滅して日本仏教の形勢は全く一変するのである。歴史を繙く者は能く此点を注意しなければならぬ所である。

望月信亨（もちづきしんこう）

明治二年（一八六九）—昭和二十三年（一九四八）

浄土宗高等学院教授・宗教大学講師を経て宗教大学学長・文学博士・大正大学設立とともに教授・学部長、浄土学研究室主任から大正大学学長。

昭和二十三年、浄土宗管長から知恩院門跡。

『大日本仏教全書』一五〇冊、『仏教大辞典』全六巻の編集は有名。

大橋俊雄著『浄土宗人名事典』より

法然上人鑽仰会

公開講演会の
お知らせ

講師

ひろ さちや

人を語る

日時 平成17年6月21日（火曜日）
午後2時より3時半まで
場所 大本山増上寺慈雲閣
東京都港区芝公園4-7-4 03-3432-1431
地下鉄都営三田線／御成門駅下車徒歩5分
地下鉄都営浅草線・大江戸線／大門駅下車徒歩7分
JR線／浜松町駅下車徒歩10分
会費 会員 無料
一般 千円
申し込み 会員、一般ともに不要
主催 法然上人鑽仰会
後援 浄土宗総合研究所

講師略歴／ひろさちや

1936年大阪生まれ。東京大学文学部印度哲学科卒業、同大学院博士課程修了。気象大学校教授を経て、現在、大正大学客員教授。宗教思想家。

仏教を中心とした宗教の真髓を鋭くかつわかりやすく語り、多くのファンに支持されている。

おもな著者に、「仏教が教える 人生を楽しむ話」「般若心経」で朝から幸福に生きる」「仏教とキリスト教」「論語」生き方のヒント」「まんだら人生論」「なぜ人間には宗教が必要なのか」など多数がある。

問い合わせ先

法然上人鑽仰会 講演会係

105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 電話:03-3578-6947 ファクス:03-3578-7036

座談会

真野龍海 大室了皓 斎藤晃道 佐山哲郎 青木照憲 平井泰代子 長谷川岱潤

読み解く 御法語を

文芸春秋刊

新装版 正岡徳居士遺集

末法の世も最盛期を迎え、人心も社会も全てが混沌としてきた現代。絶対的権威であったものも崩壊し、どのような大企業の社長であつても、一夜にして全てを失う時代となつてしまった。国会議員がハレンチな犯罪をおこし、子が親を、親が子を殺傷するニュースが当たり前のように日常化してしまった今日、今こそ私達は法然上人のみ教えを座標軸に定め、方向を見失わないように歩いてゆかなければならない。

そこで、法然上人のみ教えを御法語に求め、その解釈が様々に取りざたされている御法語を選び、真野龍海、大室了皓、斎藤晃道、佐山哲郎、青木照憲、平井泰代子、長谷川岱潤の各編集委員が、法然上人のみ心を現代に生かすべくそれぞれに意見を述べて御法語を読み解く試みを行った。

今回その第一回目として、以前より問題視されていた箇所である「宿業かぎりありて」の御法語を取りあげてみた。

諸大徳のご意見、ご見識を承れれば幸甚である。

宿業かぎりありて、受くべからん病は、いかなるもろもろの仏神に祈るとも、それによるまじきことなり。

祈るによりて病も止み、命も延ぶることあらば、誰かは一人として病み死ぬる人あらん。いわんやまた仏の御力は、念仏を信ずるものをば、転重軽受と云いて、宿業かぎりありて重く受くべき病を、軽く受けさせ給う。いわんや非業を払い給わんことましまさざらんや。されば念仏を信ずる人は、たとい、いかなる病を受くれども、みなこれ宿業なり。これより重くこそ受くべきに、仏の御力にて、これほども（軽く）受くるなりとこそは申すことなり。

大室 この御法語は、以前病氣になったり事故にあったときに、新興宗教等がよく使った言い方、「うちに来れば前世の悪い因縁をたち切ってあげよう」とか、「信仰していたからこの程度で済んだんだ」という言葉と、同じ意味に捉えられてしまうので、いままで御法語集では一部しか載せてこなかった、ということがあります。しかし法然上人は、そんな意味で言った言葉であろうはずがないのです。

真野 「宿業かぎりありて」というのはすばらしい言葉だと思います。その人が受け継いだ業も、有限の限りあるものだから、白は全て白、黒は全て黒、悪人だから全て悪人というのでは決してないということでしょう。希望を与える言葉だと思います。

平井 転重軽受というのは、あくまで精神的なこと。念仏によって病をそのまま受け止めることが出来る力を持つことが出来ること云うことではないでしょうか。だから、どんな力

よりも強い仏の力を信じなさい。という意味ではないでしょうか。

青木 むしろ病氣というものは、神仏とは全く関係ないことで、宿業によるということをいっただけで、往生を約束している仏さまの力とは関係ないこと。だから元気な人も病氣の人も等しく仏さまの力を信じなさいと言っているのではないかな。

真野 聖岡上人伝承の詞に「浄土をねがう行人は、病患を得て、偏にこれをたのしむ」の言葉が出てくるが、これも病氣が苦しくとも、そのお陰で身のふり方、仏の世界こと等を考えることが出来る自受法樂の境地のことではないかと思います。

長谷川 ある大学病院の調査で、病院に来る人の八割は病名がつく病氣ではなく、胃潰瘍の病氣であった人に、プラセーボ（偽薬）という薬でもなんでもないのであるものを薬だと言って与えたところ、その七割が治ったという文を読んだことがある。法然上人の時代、病氣に

なったといっている人に、如何に自然治癒力を引き出すかが問題で、念仏すれば治るというのも、事実としてあったことではないでしょうか。

斎藤 この「浄土宗略抄」というのは、北条政子にあてて法然上人が書かれたもので、この箇所は念仏の功德を並べて述べた一つ。「かぎりありて」にこだわらず、宿業によってくらいでいいのではないのでしょうか。

大室 北条政子が何を法然上人に望んだのでしょうか。全ては対機説法であるので、当時子供を亡くし沈んでいた政子に対して、法然上人が勇気づけるために仰った言葉ではないかと思っています。

真野 業という言葉は、親鸞聖人は和讃の中でよく使っているが、法然上人は余りお使いになっていない。この言葉、特に宿業をどのように理解するべきでしょうか。

大室 宿業とはあくまでもその人が行った前世の行為のみを指し、決して両親や、自分の

先祖の前世の行為を指すのではないと思います。

真野 宿業とは相対的であって、絶対的なものではなく、限定的なものだということでしょう。

斎藤 法然上人は多くの場所では「宿業」とは言わず「宿善」とおっしゃっています。たいへんめずらしいと思います。

佐山 「かぎりあり」とは有限であるということ。対して「かぎりなし」は無限。これは比べようもない大きな違いであることが前提になければならない。「宿業」などは「仏の御力」の前には比べようもなく他愛もないこと。ですから、老いや病、不幸な出来事といった不如意の諸問題に対して、なにか力を授けてくれているのは当たり前である。転重軽受は念仏者にとっては当然であり、だからこそ、常にいま現在はそのことによって、実はすでに軽い事態なのだ、という明瞭な自覚が出来る。ですから老いや病、不幸な出来事と

は淡々と、あるがままにつきあつてゆけばいいし、あるいは治す努力や打開策を考えてもいい。そして、それもまた所詮、有限のことであるにとらえる。目に見えないところの「非業」これも「有限」であるものだが、それはとつくに払いのけてくれているのだから、ただ安心して有限である現実を見つめつつ、愚者であろうが悪人であろうが、あるいは賢者も善人もみな弥陀の名号をお称えしながらすなわち無限のものと繋がって生きてゆけばよいのだ、ということ。ですから新興宗教のいう「現世利益」とはまったく無縁のものであると思います。

青木 要するに、宿業でいうところの前世とは当人の責任の範囲を超えているし、現世での自己努力の及ばない世界のこと、目に見えないし、何故だかもわからないけれども、自分を支えてくれている前世の人々の良いことも、悪いことも一身に両方を背負って自分が生まれてきているということをいうのでは

ないでしうか。

長谷川 この御法語は世間の物差しで見るとではなく、仏さまの物差しで見なさいと言うことでしよう。

大室 この御法語の少し前に次のような法語がある。

「されば念仏を信じて往生を願う人、ことさらに悪魔をはらわんために、よろずの仏神に祈りもし、慎みをもすることは、なにかはあるべき。(中略) かくの如きの諸仏諸神、围绕してまもり給はんうえは、またいずれの仏神かありて悩まし、さまたぐる人は……」

とあることから、この御法語の二行目にある「仏神」の「仏」には阿弥陀仏は含まれていない。阿弥陀仏以外の仏を指している。

「いわんや……」以後の「仏」(二箇所)はまさに阿弥陀仏のことである。

わざわざ「仏」と独立して述べておられることからこのことがうかがわれる。

これによっても、上人が阿弥陀仏の廣大無

辺の大きな慈悲を説いておられるその御心を深く感じるのである。

真野 転重軽受とはすばしい言葉で、景色をながめている時にも、罰で立たされて仕方なく見ているときと、自分が見たくて自然と立って見ているときでは、同じ立っていても疲れ方が全く違うはずだ。病気になっても、お念仏のおかげで転重軽受させてくださっているのだと信じれば、病に対する気持ちが大きく変わってくるでしょう。

長谷川 ハンセン病に罹ってしまった人々を、仏教徒は業の用語を曲解して長い間、業病だの、天刑病などといい、その人の先祖の報い、その親の責任、本人の行いの結果などとのしり苦しめてきた。この御法語は、そうした仏教徒の発言を全否定するものだと思う。

現在病気になってしまっている人々は、病気という現実を確かに受け止めなければならぬ。それには信仰を持ったり、念仏を唱え

てすぐに治るようなものもあれば、そのようなことでは決して治らないものだってある。ただし病気の全てが、その人の行いや先祖の行いによるところで起きたのでは決してない。自分にはどうしようも出来ない、前世の行いによって自分が受け継いってしまったことで、自分には責任は全くないことである。しかしその現実をしっかりと受け止めて生きる時、お念仏がしっかりと貴方の力になってくれるはずだ、仏さまは貴方を決して見捨ててはいない。阿弥陀仏の御心は宿業など払いのけ、病を転重軽受させてくれる力を必ず持っている。そのことを深く信じて生きる力としたい。そんな意味として理解してはどうでしょうか。

こうした座談会は連載というわけにはいかないのですがこれから機会あるごとにできたらよい、と思います。

八畳一間の五合庵でひっそり暮らす良寛さんはひそかに戒語を作り、常日ごろ自分に言い聞かせていた。

紙に書くのも恥ずかしいので、囲炉裏の灰の上に書いては消し、消してはまた書いた。

- 一、言葉の多き
- 二、口の早き
- 三、問わず語り
- 四、さし出口
- 五、人のもの言いきらぬうちにもの言う
- 六、よく心得ぬことを人に教える
- 七、人の話の邪魔をする
- 八、親切らしくもの言う
- 九、たやすく約束する

「どれもこれも己の姿だ。厳しく己を戒めなければ、平気で愚かなことばかりしてしまふ。そうして何時か愚かな自分にも気がつかなくなってしまう」
そうつぶやいてまた火箸を運んだという。

- 一、学者くさき話
- 二、風雅くさき話
- 三、悟りくさき話
- 四、茶人くさき話

子供達とかくれんぼうしているうちに、木陰で寝込んでしまった良寛さん。己に厳しい人だったのである

古き伝統技

三代にわたる信頼

服社
有会

浄土宗法衣専門
古島法衣店

〒114 東京都台東区元浅草4の2の1
電話 (03) 3842-1128 9
振替 00180-2-45231

連載

会いたい
関 容子

人 中村

富
十
郎
さん



1

撮影／タカオカ邦彦

あるとき、三宅坂の国立小劇場へ文楽を観に行き、幕になって客席が明るくなつてから気づいたら、お隣りが中村富十郎さんだった。歌舞伎界のこれほどの大ベテランでもこうして勉強を怠らないのだ、という感銘を受けた。「ええ、文楽は観に行かなくっちゃいけないんですよ。浄瑠璃を聴かなくっちゃいけません。歌舞伎役者から義太夫と踊りを抜いたら、相当なくなっちゃいますからね（笑）。義太夫は大事です。ぼくも年齢が重なるほど、義太夫っていいものだと思うし、とにかく人形浄瑠璃は丸本物（義太夫狂言）の本行（ほんぎやう）（原点）ですからね。観に行けば必ず何か発見があります」

昭和四年生まれという年齢が信じられないほど、富十郎さんの早口で畳かけるように話す口調は爽やかで若々しい。

本来なら梨園（りえん）の大御所として納つていてもいい立場だが、そういう役どころは天王寺屋は好まないだろうし、またニン（持ち味）で

もない。

「ぼくの初舞台は遅くて、昭和十八年、十四歳のときでしたから、その遅れを取り戻さなくちやと思つたのか、沢村源十郎という脇役の方が、さあ坊や、お稽古しよう、つて、顔さえ見れば楽屋で義太夫の稽古をしてくれたものですよ。太十（たいじゅう）（『絵本太功記』十段目）とか掲屋（あけや）（『碁太平記白石噺』七段目）とかを稽古してくれる。それが手ほどきです。何しろそのころ住んでた父（四代目富十郎）の家は大阪四ツ橋の文楽座のすぐ近くでしたから、しょっちゅう行つて義太夫を聴いてました。名人鶴沢清六さんの『合邦』（がっぽう）の三味線に聴き惚れたりしてね。当時は名人がズラズラズラツといましたから、わからないながらも子供ごころに音の感激というのはずっと憶えてますから。それに大阪の場合、松竹の白井（松次郎）会長が文楽がお好きで、歌舞伎に文楽座特別出演というのがとても多いんですよ。みんな大阪に住んでますから旅費もかか



昭和47年、歌舞伎座の「道成寺」



りませんし、そのころは文楽がまだ松竹の傘下でしたから、白井会長のお声がかかりで俳優と同じように動かせたんです。ですからうちの父の八重垣姫（『本朝廿四孝』）なんか『裏庭』の人形遣いが役者じゃなくて、文楽から桐竹紋十郎さんが出てたんですから、すごいことですよ。狐を遣って、パツと引き抜いたりますと、お客様は大喜びで拍手喝采。よかったですよ、華やかで、コクがあつて……。なんてつたつて、本物の人形遣いですからね。父もやりやすかつたろうし、楽しかつたろうし、有難かつたことでしょうねえ」

富士郎さんの父四代目富士郎は、明治四十一年、坂東彦十郎の三男として生まれ、美しい若女方として人気を博したが、昭和四十五年、五十二歳の若さで没した。

そして富士郎さんの母は舞踊家として、また情熱の女性としても名を馳せた吾妻徳穂。平成十年、八十九歳で亡くなるまでずっと現役として活躍していた。

富士郎さんは東京、赤坂溜池の生まれ。現在の全日空ホテルのあるあたりだった。

「母はほとんど毎日銀座の稽古場へ出かけてしまつて、子供の相手なんかしてくれませんでしたから、あのころの母の思い出はほとんどありませんね。母方の祖母は藤岡政弥まさやといつて、新橋の花柳界で踊りの師匠をしていたので、この人がぼくの踊りの手ほどきをしてくれました。数えの四つよのときに帝国ホテルの宴会場の舞台上で『羽根の禿かぶ』を踊つたのが、舞踊会での初舞台ということになりますね」

この政弥という人がきれいな人だったらしく、美男で名高い十五代目市村羽左衛門とも浮名を流した。羽左衛門は、政弥の娘の藤間春枝が若手舞踊家として「春藤会」を主宰するようになる何かと応援を惜しまず昭和八年には吾妻流四代目家元を許し、その九年後に春江は吾妻徳穂と改名する。

「母は十五代目さんから喜久きく、榮えいと本名で呼ば



指揮者、レナード・バーンスタイン氏
と歌舞伎座楽屋にて(昭和六十年九月)

れてずいぶん可愛がつていただいたそうです。何かのお使いで、それも御本宅じゃない
おうちへ母が伺ったら、二階からトントント
ントンと角帯をしめた十五代目さんが降りて
きて、なんていい男なんだろう、と惚れ惚れ
したそうです。ぼくが十歳のとき母の舞踊会
でおかる勘平道行の勘平を踊りましたけど、
そのときはわざわざ楽屋へ来てぼくの帯をし
めてくれましたからね。十五代目さんの勘平
というのは天下一品でしたから、そんな人に

帯をしめてもらったというのはすごい思い出です」

その勘平に続いて『関の扉』の関兵衛や『辰橋』の渡辺綱という大役を踊っているが、その後は少々踊りから遠のくことになる。

富十郎さんが十一のとき両親が離婚し、父富十郎は関西歌舞伎へ移ったために、それからは父方の祖母と芝の城山町で暮すようになったからだ。

「このお祖母ちゃんは渡辺ツヤと言って、横浜の時計屋の娘でした。子供のころに、店へ立ち寄った西郷隆盛が抱っこしてくれた、というのが自慢のタネでしたね。まったくの素人の家の娘が三代目鶴之助（のちの彦十郎）と世帯を持ったわけですが、男が白粉を塗った顔を初めて見てびっくりしたというくらい、お素人さんでした（笑）。この祖父はぼくが生まれたころはもう亡くなっていました。が、祖母の家の近くに二人伯母さんが住んでいて、ちよいちよい訪ねては、ぼくの面倒も

見てくれていました。上の伯母の旦那は実業家で、競走馬を持ってましたから、そんなことから競馬好きだった六代目（菊五郎）さんとも近づきになったらしいです。もともと六代目さんの別宅が城山町にありましたから、釣りのお帰りには魚を届けさせてくださったり、祖母ともおつきあいがありました。ぼくは慶応の幼稚舎に通いながら、昼間はトンボを取ったり、夜は祖母と一緒にラジオの広沢虎造（浪曲）を聴いたり、この時期は比較的に平穏な生活でしたね」

しかしこの静かな暮らしも、祖母の死によって二年ほどで終ることになる。

「昭和十六年、戦争が始まった年でした。祖母とは一緒に部屋で寝てましたけど、夜中に心臓狭心症の発作があつて、一（本名）、起きておくれ、って起されて、それから何日かたって亡くなりました。お葬式には大きなマスクをかけた威厳のある……でもどこかで見たとようなおじさんが現れて、ていねいにお焼

香をすませるとすぐお帰りになりましたが、伯母たちがものすごく恐縮していたのであとから聞くと、それが六代目菊五郎さんでした。前に伯母たちに連れられて何度かその素晴らしい舞台姿を拝見していましたが、素顔は初めてで、でも本当に立派でしたね」

昭和十八年八月、富士郎さんの父三代目鶴之助が四代目富士郎を襲名する。このとき、初代富士郎が天明期に創演した由縁の『娘道成寺』を踊って絶賛されたが、もう一つ話題を呼んだのが『鏡獅子』の名演と、長男四代目鶴之助の初舞台だった。

「父は息子を役者にしようとはまったく思っ
てなかったそうなんです。ぼくはそのころは
海軍にあこがれてましたから、自分でもそう
いう気はなかったですね。ところが松竹の白
井会長がどうしても出せとおっしゃって、父
も君命もだしがたく（笑）、承知したわけな
んです。それで『鏡獅子』の胡蝶を特訓する

のに東京から市川翠扇すいせんさんという、九代目團
十郎さんの下のお嬢さんに大阪までいらして
もらって、毎日うちでお稽古をしていただき
ました。この方は新派女優の二代目翠扇さん
のお母さんですけど、何しろ九代目さんが
『鏡獅子』を初演（明治二十六年）なさった
ときからの、由緒正しい胡蝶なんですからね。
言わば書下しの胡蝶、本流の直伝じきでんですよ。こ
のことはぼくは誇りに思ってます。口三味線
で最初から立って教えてくれましたけど、背
中の貝殻骨（肩胛骨）をもっとくつつけて、
とか、こわいおばさんでした」

この襲名の『鏡獅子』は、大阪中座の夏芝
居にはちよつと不似合な、素敵に豪華な舞台
となった。

「父が上京して六代目（菊五郎）さんのとこ
へじかにお願ひに行つて、長唄たづなさんも立三味
線も全部貸していただいたんです。お囃子も
それこそ鼓は初代の藤舎呂船とうしゃろせんとか太鼓の望月
さん一派が現役バリバリのときですよ。夏で

六代目さんは休みでしたから、それができたんです。白井会長が父のことを御最^ご願^{ねん}でしたから、そうさせてくれましたね。ですから六代目さんと同じ乗り、（調子）の『鏡獅子』になるわけで、これはまあ素晴らしい感激でしたねえ」

富十郎さんはここで、六代目菊五郎の『鏡獅子』がいかによかったかについて熱く語った。「木村伊兵衛さんが撮った後^{のち}ジテの写真。毛を振りながら、顔の向きがあんな（斜め上）で、眼は上を見ながら、しかも毛先がピツと立ってるのがあるじゃないですか。あれは糸か何かで釣りでもしないととてもあはなりませんよ。ぼくものちにあこがれてずいぶん挑みましたが、できませんでした。あの六代目さんの獅子の毛には芯が入ってないんですね。普通、弾力性を出すために何か入ってるんですけど、芯なしにするのもすごい。毛自体も違うみたいで、中国から本物のヤク（チベット牛）の毛を持ってきて作ったもので、

とにかくあの方は見る眼があつて、小道具でも衣装でも地方^{ちかた}（伴奏者）でも本物の特級品をお使いになったんですね。ぼくが鶴之助時代に、六代目さんの床山さんがこの獅子の毛を一度だけ貸してくれたことがありますけど、やっぱり軽くてしなやかですごくいいものでした」

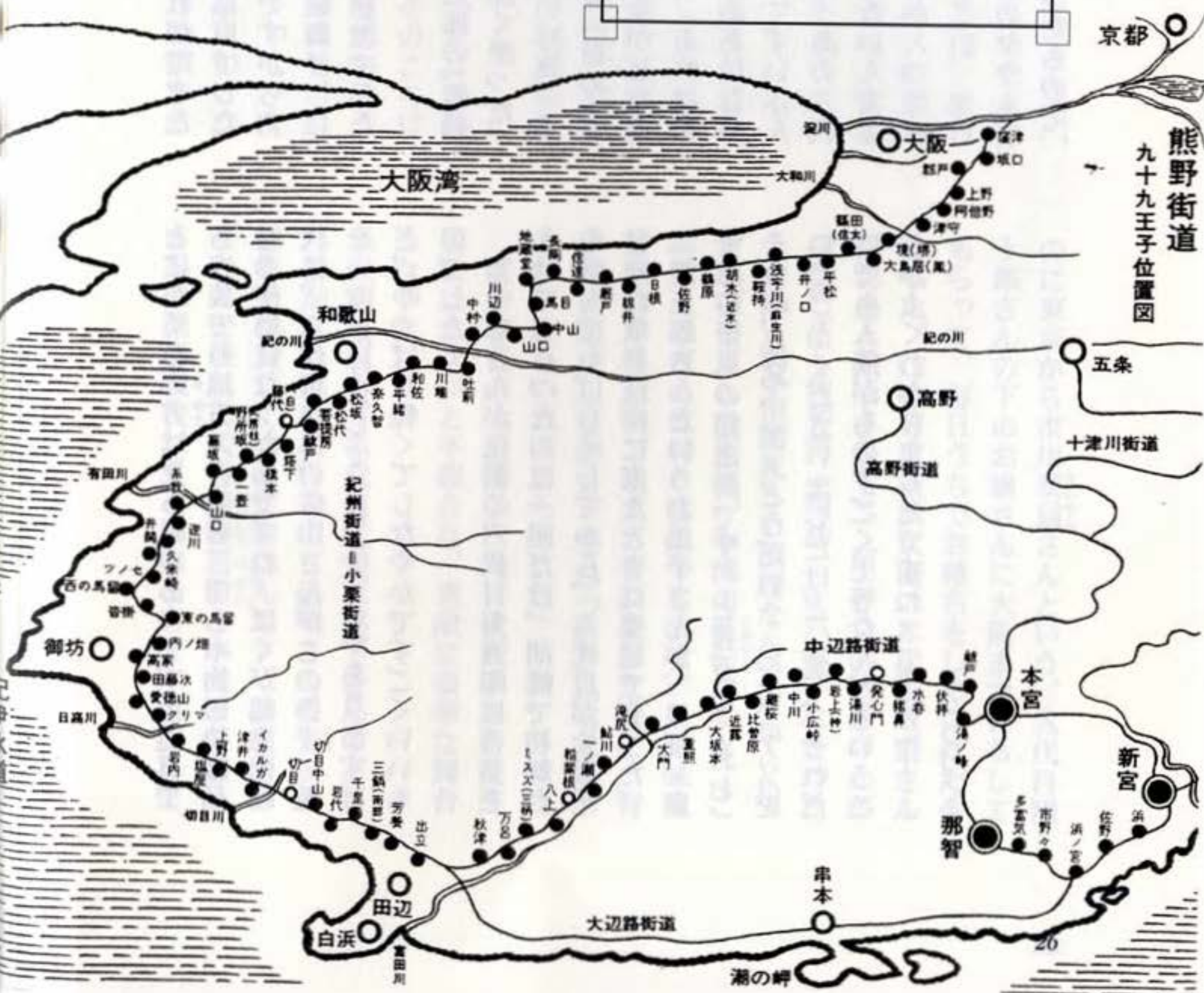
富十郎さんが生前の六代目菊五郎に言葉をかけてもらったのは一回だけ。胡蝶で初舞台を踏んでしばらくしてから、六代目が大阪千日前の歌舞伎座に来たときに楽屋で会った。

「鯉三郎さんというお弟子さんが、旦那、富十郎の子息の鶴之助です、と言うと、おお、そうか、坊や、アメどうだい？　って、アメをいくつかくださいましたけど（笑）、それだけでも人間がものすごく上等なんだということがよくわかりましたですねえ、本当に……」

（つづく）

第四回

森清鑑



切目王子から 美しい千里浜へ

道成寺を後にして、日高川を渡り、塩屋王子に出る。境内には後鳥羽上皇の碑が残っている。ここから印南いなんに入り熊野古道はいよいよ海沿いに行く。印南は鯉節発祥の地。またまた、日本食文化の基礎となる発祥の出現である。ここからさらに斑鳩王子を経て、切目きりめ王子おうじにでる。切目王子は、五体王子のひとつで格式が高い。五体王子とは天照大神あまてらすおみを基点とする五代を奉った王子社だという。立派な社が杜に囲まれて存在している。境内には、ナギの木もある。平清盛が熊野行幸の際、ここで源頼朝の反乱を知り、神の木、すなわちなぎの枝を折り、神仏の加護を祈願し引き返し、平治の乱を治めたという逸話が残されている。このことは平清盛も熊野信仰の実行者であった事実を物語っている。

切目王子からは砂浜を歩く。詣での人々は

ここで心の辛苦を洗い流し、身を清める。今も、きれいな海でアオウミガメの産卵地である。洗濯板のような岩場が方々に見られてその眺望はすばらしい。この景観は「枕草子」や「伊勢物語」にも登場する。人々は岩伝いに歩いたこともあったろう。砂浜で貝殻を拾う。拾った貝殻を次の千里王子せんりおうじに供える習慣がある。千里王子に着く。熊野古道中辺路はこの王子から先は海を臨むことはあるが、海辺を歩くということはない。波打ち際をさらに行く、砂浜に突き出たような崖の上に岩代王子がある。潮風がもろに当ることもあって社の木組みも白茶けている。社は徳川家宣（紀伊徳川初代）が再興し、一七〇〇年代にさらに建て直したとある。金属板の復元図があるが簡素な造りである。しかし、長廊下や、茶店風の憩いの場所、宿屋などの痕跡が伺われる。

やがて、南部の岬に到着。温泉に入る。この温泉は崖の上に在り、美しい海の景色が浴



◆千里浜の景観

槽から展望できる。湯はこの上もない上等の一言。身体を伸ばした瞬間、肌にすべすべ感が来て、透明で美しく、格別の硫黄臭も無い。かくも贅沢な湯が銭湯のように味わえるところが南部である。

小栗判官伝説

翌朝、海は時化^{しけ}模様になった。ぬくい雨中、三鍋王子に着いた。沖を見れば、鍋を伏せた形の島が三つ見える。そこから、処^{ところ}の人は、三鍋と称した。現在の南部の誕生である。ここはすでに田辺の文化圏に属している。王子跡に踏み込むと、「小栗井戸」がある。小栗伝説はここでも生きている。小栗の人生は、京都鞍馬山から、関東常陸に及ぶ。妻の照手姫は常陸国の姫であり、事件に巻き込まれた二人の人生は、夫は、死して地獄から再生したときには、ハンセン病で目も見えず、姫は娼婦にまで身を落とす。しかし、熊野権現様の導きによって二人は熊野で再び結ばれる。

照手姫は変わり果てた人を夫とは知らずに木車に乗せて治療を求めて古道を歩く。ついに二人は熊野権現様に救われ、もとの姿に戻る。梅原猛脚本で、猿之助が新橋演舞場で公演した「オグリ」を見たときには、小栗判官物語は、一遍上人の時宗の僧侶が作ったようだ。そして、この物語は、鎌倉時代に遠く関東からの熊野巡礼の人々を増加させる大きなインセンティブになった。伝説は口コミでさらに拡がり、いわゆる「蟻の熊野詣」なる盛況を見た。往時、田辺では一日千人の詣客が泊まったとの記録がある。

降りしきる雨の中、芳養王子^{はやおうじ}に着く。この秀麗な神社の正面に小川家がある。小川家の先祖は、後白河上皇の熊野行幸の際、身边警護の任に就き、そのまま代々芳養王子の管理を任されてきた。小川家の鳥居門は八百年以上の歴史を刻んでいる。

芳養王子から天神崎に出る。ここは日本の環境トラスト運動の走りの地である。人々は



◆小栗井戸

一坪ずつ、土地を買い、この自然景観を開発から護った。古道には、今も文化発生の地が流れている。

簡素な商店街から坂を登った左手に出立王子^{でたちおう}はある。王子社跡には小さな記念碑があり、銅板が立っている。往時の大きな社と渡り廊下が描かれているが、天正の乱で焼失した。そこから細い路がくねるように登っている。これこそが熊野古道である。ここからは、熊野本宮を目指して急峻な山道を登る。この王子社はその覚悟を培うことで、「いでたち」の語源といわれている。

高山寺と南方熊楠

出立王子から行動沿いに高山寺^{こうざんじ}はある。高山寺は推古天皇時代に創建という由緒ある寺で城砦を思わせる堅固な造りになっている。戦国時代に良くぞ城に変えられなかったものだ。寺が城と化した例は多々あるそうで、一例が彦根城。中世期には一大観音霊場であっ

たが井伊家が城砦にしたという。

田辺で忘れえぬ人物が、博物・民俗学者の南方熊楠である。高山寺に眠る彼の墓を訪れた。墓の右側に熊楠を偲び、讃える昭和天皇の御歌がある（御歌を記した看板は昭和三十三年に建てられた）。生物学者でもある陛下は熊楠を尊敬していた。ついに戦艦長門に乗り田辺湾を訪れ海上で熊楠と会う。そのとき熊楠はキャラメル^{キャラメル}の箱に粘菌の標本を入れ、天皇に献上したという有名な話がある。熊楠は博覧強記の天才で、十数か国語を駆使した。例えば「十二支考」では冒頭で虎の呼び名について驚くべき数の言語に触れ、ギリシヤや古代ローマの語源にまで及んでいる。おびただしい数の日本の植物標本では、詳細な図柄と英文、日本語の解説が施されている。この英文はとて日本人が書いたものとは思われない。慶応三年生まれの彼は、大学予備門（旧制第一高等学校の前身）を経て、二十歳で渡米し、世界各地を巡り動植物の調査研究

に没頭、ロンドンの大英博物館に勤務、著名な科学誌「ネイチャー」に多数の論文を発表している。民俗学の分野でも先駆者であり、親交のあった柳田國男は「我が南方先生ばかりは……」という書き出しで「日本人の可能性の極限かとも思ひ、又時としては更にそれよりもなほ一つ向ふかと思ふことさへある」(柳田國男集第二十三卷)と評している。とにかく途方もない巨人である。粘菌の発見は、彼の生物学業績の中で重要な位置を占めているが、顕微鏡で見るとアメーバのように動き食べ物を取り込み成長していく。国立博物館で驚くべきその生態を目の当りにして感激したことを思い出す。陛下に献上した時に使ったキヤラメルの箱も通気性を考慮した合理的な処置だったのである。

弁慶ゆかりの闘鶏神社

高山寺で南方熊楠の墓参をした後、闘鶏神社に赴いた。途中、田辺市の繁華街を抜ける。

田辺市はおもしろいところで、とにかく飲み屋や食事処が多い。ここで潤沢な魚が安く振舞われる。したがって、外食機会が多く、エングル係数はおそらく高いと思われる。そういえば、塩屋や印南のドライブインですらエの料理看板が目についた。ヌエは鍋にしても、刺身で食するのもうまい。

闘鶏神社は田辺市の中心部にある。行ってみて驚いた。荘厳な神殿造りのがいくつも並んでいる。屋根の上で交差している棟は男女の神を表現しているという。闘鶏神社は十二神を祭っているが、神仏混淆形態をとっている。天照大神は、十一面観音であり、スサノオノミコトは阿弥陀如来の化身とされている。境内には、樹齢千年を越す大楠の御神木がある。木の前に小さな祠があり、一人の男性が一心に手を合わせていた。熊楠の時代、神社の背後には平地ではめったに見られぬ密林があり、熊楠の植物研究のフィールドでもあった。森の老楠が伐採され始めた時、彼は



◆境内の大楠



◆南方熊楠の墓

猛烈に抗議している。境内に残る大楠もその一端を象徴している。

この神社は古く（社伝四一九年創建）、嘗ては熊野三山の遥拝所であり、別宮的な存在でもあった。また、熊野別当として名高い湛増の本拠地で弁慶の縁のところでもある。弁慶は、熊野水軍を治める湛増の息子と伝えられている。時来たりて源氏につくか、平家に味方するか、彼らは迷った。そこで湛増は、社前にて白赤七羽の鶏を闘わせ神意を質した。（白が源氏、赤は平家）その結果、源氏に味方することに決定し、弁慶は、熊野水軍二千余人、二百余船を引き連れ、壇ノ浦に馳せ参じたとある。このエピソードは当時の熊野水軍、湛増、弁慶の力量を物語っている。

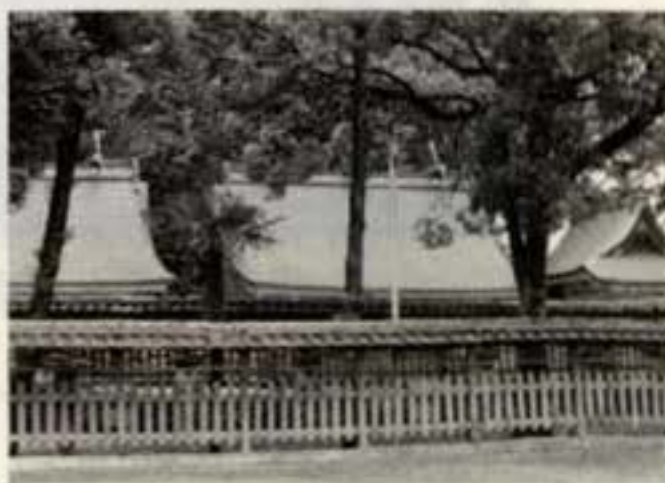
三栖峠沿いに八上王子へ

古道は高山寺から三栖王子跡を抜け、岡道を登る。ここからは峠道でいよいよ熊野の山に入ったという実感である。三栖峠の連なる

山々は、霧に覆われ、雨足は強く田畑を叩く。しかし、心地良い。しばらく行くと、突然こもりとした社が見え、階段を登りつめると小さな空間が現れる。これが八上王子^{やがみおうじ}である。現在は、八上神社となっているが、鬱蒼とした原木と異様な震撼に包まれている。社殿の屋根から雨音が響く。辺りはほの暗い。目を凝らすと、苔むした碑が立っている。西行法師の歌碑だ。「待ちきつる、八上のさくらさきにけり、あらくおわすな三栖の山風」とある。

雨に打たれながら農道のような古道を歩く。蓮の花が咲いている。この蓮は二千年前の縄文種子を咲かせたものという。やがて瓢箪畑の先に社が見える。そこが田中神社。南方熊楠が、政府に直訴してまで明治の愚鈍な神仏合祀運動から守った社である。彼はここには生物学的に最も貴重な環境があると訴えた。特に、境内の藤の木は一般の藤と異なる独自の存在で「オカフジ」と名づけた。大変

◆壮麗な神殿



◆湛増と弁慶像



な古木だが、先端部に花を咲かせていた。おそらくここでは、彼の研究テーマである粘菌も採取できたに相違ない。

明治の御世に廃仏毀釈の政策が行われ、仏寺は統廃合されるといふ暴挙が起った。この浅薄な政策のために長い歴史に培われてきた日本の自然がどれほど失われたことか。熊楠はこれに大反対し、具体的には田中神社の自然保護運動を開始した。この時、熊楠は日本ではじめて、エコロジーという言葉を使ってゐる。この愚鈍な政策がなかったら何百年という神木が日本中に残り、現代人の心のオアシスになっていたに相違ない。

田中神社から少々歩くと、稲葉根王子がある。杜の周囲を小川が流れ、鳥居をくぐると、古木が目につく。神社の杜というものは、植生が異なるのですぐ分かる。自然の荘厳さが常に宿っている。ここは、五大王子に匹敵する王子社で、神楽堂、宿泊施設を備えた規模であったという。すぐ傍を岩田川が流れてい

る。岩田川は現在では富田川とんだがわと呼ばれているが、本稿では岩田川と呼びたい。その昔、岩田川は、戦場交通の要衝で、江戸時代にはここに関所があつた。すなわち運賃を取つたのである。境内には「月ひとつ神楽の上に四つ上に」という句碑があつた。



◆八上王子の西行歌碑



◆田中神社の「オカフジ」

2005

5

絵と文

村上健

『陽たまりの街』

古びた商店ばかりを好んで描いて、丸三年になる。「気が付かない内に、店もお前も古くなったよなあ」とかなんとか、店主が内儀に悪態についてそうな風の店ばかりだ。

そういう店だから、建築的価値を認められて文化財指定なんてことは、まずない。描いてしばらくすると、コンビニなどに姿を変えてしまい、残念な思いをすることもしばしば。

たしかにコンビニは便利だけど、風情ってもんがねえ……。そう思っていたら、何とありました、便利と風情が同居する物件が。本郷三丁目近くで見つけたこのビルは、昭和初期の建築で、外壁のモダンな色とテラコッタの古典的な装飾が実にいい塩梅。スケッチ心をそそります。

新旧交代に忙しい東京の風情ですが、こういう共存もあるのです。

孝養の行は、仏の本願の行にては候わねども、八十九にておわしまし候なり。あいかまえてことしななどをば、まちまいらせさせ、おわしませかしとおぼえ候、あなかしこあなかしこ。ことごとはいかでもおわしまし候わんに、くるしく候わず。ただひとりのみまいらせて、おわしまし候なるに、かならずかならずまちまいらせさせおわしますべく候。

（熊谷の入道へつかはす御返事（五月二日付））

親に孝行を尽くすことは、阿弥陀さまの本願の行ではありません。けれども、お母さまは八十九歳におなりになるのですから、孝養に心がけください。そして、今年あたりはお浄土からのお迎えが来るかもしれないというお心構えでお待ちになるように勧めるべきだと思います。くれぐれもそうなさいませ。他の事柄はどのようにされても差し支えはありません。お母さまはあなた一人だけを頼りにされているのですから、お母さまが必ずこうしたお心構えでお迎えをお待ちになるように勧めてください。

孝養の心——いのちの絆——

報道を通じ、去る三月四日に開かれた参議院予算委員会での山谷えり子議員による質問内容を知り、早速、同院会議録でその全文を読んでみました。まずはその一部を抜粋して紹介しましょう。

家庭科の教科書、先ほど家庭崩壊科じゃないかと申しましたが、その一部を紹介させていただきます。これは、私がPTAの講演に行つて、あるお父様が「うちの娘がこんな本を読まされている。おかしい」と言つてくださったものです。

『次の疑問に答えてみましょう。A子さんとB夫さんは結婚して二十年。八年前から別居中。きっかけはA子さんに別の好きな人ができたから。この二人は離婚できるでしょうか』とあります。かつてサッチャー首相が政権についたとき、こんな演説をしました。「イギリスの子供たちは英語で自分のことを的確に表現できない。伝統や道徳の価値を教わっていない。浮気をする権利があると教わっている。これはとんでもないことだ。教育改革しなければいけない」と。当時の私は、浮気をする権利なんて学校で教えるわけがないと思いました。しかし今、日本で、家庭科の教科書でこのような文章があるのです。

そしてまた『例えば祖母は孫を家族と考えていても、孫は祖母を家族と考えるな

い場合もあるだろう。犬や猫のペットを大切な家族の一員と考える人もある』と書いてあるのです。別のところでは『従来は未婚の母という言葉が使われてきた。しかし最近では、法律的に結婚せずに子供を産み育てることを自らの意思で選び取って母親になる女性を非婚の母、シングルマザーと呼ぶようになっていゝ』ともあり、自らの意思で選び取るシングルマザーをあたかも勧めるかのように書いてゐるのです……（第一六二回国会・参議院会議録情報・予算委員会・第五号）

いかがですか。山谷議員による指摘のように、これでは家庭科ではなく、まさに家庭崩壊科です。こんな教科書を執筆された「お偉い先生方」は、夫婦、親子、あるいは、祖父母と孫といったへかけがえのない大切なあの方との心と心のふれあひの尊さを真剣に考えたことがないのでしょゝか。それとも「親孝行や夫婦の絆など、封建的で古くさい過去の遺物であつて、それに縛られていたのでは正しい人権や自由を享受することなどできやしない」と受け止めてゐるのでしょゝか。そして、こうした教科書を与えられ、そうした思考に染まつた「先生方」に点数をつけられる子供たちが祖父母や親への孝養の心を忘れてしまふのでは、などと案じるのは杞憂でしょゝか。法然上人がお示しになられた阿弥陀さまのお浄土は、へ大切なあの方との心と心の

ふれあい」である俱会一処が叶う「場」であり、だからこそ、そこで心おきなく悟りへの道を歩むことができるのです。「心と心のふれあい」のない無味乾燥な場所など、私は決して行ってみたいとも見てみたいとも思いません。

冒頭のご法話は、坂東武者熊谷直実公からの問いに対して法然上人が回答された消息の一節です。直実公は、法然上人の教えに感銘し、そのお示し通りにお念仏一筋の日暮らしを終生送られた方です。しかし、剛直な気性を具えていた直実公だからこそ、お念仏の相続と母への孝養の狭間で思い悩んでしまうのです。八十九歳と言えたいへんな高齢です。今の感覚でいえば、百歳は超えていることでしょう。そんな直実公に法然上人は、母上の孝養をしつかりと尽くすようにと優しくお示しになり、同時に、必ずや母上が浄土往生を遂げられるようにとお念仏をお勧めになるのです。きっと法然上人の脳裏には、孝養も叶わずに別離を強いられた父時国公と母秦氏のお姿が浮かんでいたことでしょう。そして、ご両親をはじめとする大切なあの方との俱会一処を叶えられた法然上人や直実公は、八〇〇年後の今、祖父母から父母へ、子から孫へと連なるいのちの絆への感謝の表れである孝養の心を軽んずる現代の風潮を、お浄土でいたく悲しんでおられることでしょう。

合掌（大正大学専任講師・林田康順）

日本酒のことば

の日本酒

じかん

その七

酒蔵見学

さる三月の日曜日。おなじみの四谷の居酒屋Yのご主人Kさんのご尽力により、私の大好きなお酒の一つである「天青」を醸す、神奈川県茅ヶ崎市の蔵、熊澤酒造さんを訪ねることができました。JR相模線・香川駅から徒歩五分。湘南の海からほど近く、周りには林や畑もちらほら……。そんな環境のなかに建つこの蔵は、明治五年の創業。つまり百三十年をこえた古い蔵ですが、しかし、ここはある意味で、とても新しい蔵だともいえるのです。お話をうかがうと、六代目蔵元の熊澤茂吉さんは、九年前、若千二十六歳の若さで先祖伝来の日本酒の家業を引き継いだそうです。そこから、熊澤

酒造の新しい歴史が始まりました。「これまでのように、仕込みの時期だけ他の土地から杜氏や蔵人さんを雇うのではなく、地元の若い仲間たちと一緒に、心から納得のいく旨い酒を造りたい」。そのため、六代目は、日本酒造りに加えて、一年を通じて醸造できる地ビール作り（ブランド名「湘南ビール」）にも着手しました。冬場（仕込み期）に労働が集中する日本酒だけを造っていたのでは、地元の青年たちを通年雇用することができないからです。それと同時に、蔵の敷地内に作りたてのビールが楽しめるビアレストラン「湘南麦酒蔵」をオープン。そうやって、様々な工夫で経営的にも環境



藤原理加

取材協力 熊澤酒造株式会社（神奈川県茅ヶ崎市）
萬屋おかげさん（東京都四ッ谷）

を整備し、四年前、ついに誕生したのが、若干三十一歳という若き杜氏、五十嵐哲朗さんのもと、じつに平均年齢三十歳未満（！）の青年たち四人が醸す『天青』ブランドなのでした。

五十嵐杜氏の案内で、もろみの匂いも芳しい今、まさに天青を醸造中の蔵の中を見学させていただきました。手作りの枯らし箱（麹室から出した45℃の麹を一気に冷ますためのもの。美味しいお酒造りにとっては非常に大事な工程を担う）をはじめ、蔵の中には隅々まで、五十嵐杜氏ならではのこだわりがありました。四人という少人数で、いかにかけるべき手間を惜しまず、ムダな工程を廃すか。

感心して見ていると、杜氏は笑って、「じつは、この蔵にある物は中古品だらけなんですよ」と教えてくれました。たとえば、もろみを発酵させるタンクは、自らトラックを運転して四国の蔵までもらいに行ったのだそうです。そんな中古品を様々な工夫を施して、オリジナルの優れ物に蘇らせて使う……。作品にはその人が出る。これは私の持論ですが、今回、熊澤酒造を訪ねてみても、やはりそう思いました。『天青』の突き抜けるよくなすずやかな味わいには、心身を賭してひた向きな、でも温故知新で柔軟で明るい、そんな素敵な情熱が、たくさん込められていたのです。

世にも不幸な物語

監督 ブラッド・シルバーリング



2005年5月丸の内ルーブルほか
松竹・東宝系にて全国拡大ロードショー

©2005 DREAMWORKS LLC AND PARAMOUNT PICTURES CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED.

本年度のアカデミー賞受賞作品である。メーキャップ部門での受賞であるから、悪役「オラフ伯爵」として、いわゆる「七変化」^{しちへんげ}を演じ抜いたジム・キャリーの、特殊メイクが高く評価された成果と衆目の一致するところであろう。

オラフ伯爵が執拗に付け狙うのは、ボードレール家の孤児たち・三人に遺された莫大な資産なのだが、彼の品性（無節操）を評してヴァイオレット姉さんが弟のクラウドと妹のサニーに示した「カメレオニック」なる形容詞が、彼の形態的特徴（千変万化）をも的確に伝えて「七変化」（正しくは三変化）が成就された。

「三変化」といえば、オールド・ファンならずともキューブリック監督「博士の異常な愛情……」において、アメリカの大統領、イギリス空軍大佐、狂気の科学者の三役を痛快に演じ分けたピーター・セラーズのファイン・プレーを思い出すだろうが、この作品でジムが扮するのは前記「オラフ伯爵」一役のみで、その伯爵が「二変化」を演ずるのだから、オールド・ファンならば先例として、かの片岡千

惠蔵扮する多羅尾伴内による「七つの顔の男」シリーズを挙げるだろう。要するに「変装」なのだ。

古くはポーシャ（女性）がバルターザ法学博士（男性）に化ける『ヴェニス商人』このかた、この手のドラマに不可欠な登場人物は「欺される」多数と、「見抜いている」少数であり、観客が特権として後者と視点を共有できるのも約束ごとの一つである。ところでこの映画の特徴はといえば「変装者」が悪玉であること、しかも小なりといえども劇団を率いる役者であり、悪玉のグループは変装を「なりわい」とするプロの集団であることだが、これに對抗すべき善玉たちは救いようのない「お人好し」揃いの「欺される多数」であって、「見抜いている少数」三人組の行く手に展開するのは「世にも不幸せな物語」以外にありえない。

しかもオープニングにおける、原作者レモニー・スニケットの予告で言及される「秘密組織」が物語全体の背景を成しており、しかもオラフ伯爵のみが、その「威」を借りることができらしいのも、「不幸」を増幅せしめるのみと思われるが、ロゼット型

の円窓と古風な望遠鏡に秘められた謎の解明に、クラウスの試行錯誤が功を奏しつつあるらしいのは、災いが福に転じられる曙光かと囑望される。

クラウスは「かしこい」のである。かれは本の虫であるばかりか（筆者などとは殆んど正反対に！）一度読んだ内容を確実に思い出すことができる。二つ年上の姉、十六歳のヴァイオレットも超人的な能力を「創意工夫」の分野で発揮する。末娘のサニーは「這い這い」から「よちよち歩き」に移る成長過程にあるが、まだ四枚しかない歯で何物をも噛み砕くという特技を披露する。

或る日、海浜で遊んでいる三人に悲報が届く。自宅の豪邸が全焼し、両親も焼死したという。メッセンジャーは遺産管理人となった銀行家のポオ氏。かれが三人の養育を託すべく親類縁者の中から選定した最初の後見人が前記伯爵だが、責務に反して虐待を重ねるのみか「大いなる遺産」横領を目的に三人を亡きものにせんと企てる。クラウスの知識とヴァイオレットの機智とサニーの歯力が合体して危うく難を逃れるが、欺され役の代表たるポオ氏は殺意を

見抜けず「責務怠慢」の科とがで後見人権を剥奪、後任に爬虫類学者モンティを指名し、三人は「爬虫類の館」の住人となる。ところが助手として応募して来たステファノが、実はオラフの変装であることを、一目で見抜いた警告も、大人たちには馬耳東風。揚げ句の果にモンティはオラフに毒殺され、三人の身柄は湖畔の「奇邸」に独居するジョセフィーヌおばさんに委ねられる。オラフはシャム船長に変装して、おばさんを丸めこむ。又しても「見抜く」「欺される」のパターン。三人の特技と「けなげさ」により、危機は一髪のところ回避される。

われら老人にとって「幼きものの健気さ」のシーンに勝る、心の癒しはないのではあるまいか。大江健三郎『二百年の子供』のヒロインたる八歳の少女が「祖母に聞かせたい言葉」として「けなげ」に思い及ぶのも「むべなるかな」である。シルバー料金活用に一見をお奨めする。但しハラハラ・ドキドキに耐える心筋の柔軟さを前提としての話だが。

吉例によって蛇足。カメレオン顔負けのオラフ伯

爵から化けの皮を剥ぐ決め手は、右の踝に刺青された「眼」だが、そもそもオラフ邸を訪れたポオ氏をたじろがせたのも、扉に画れた「眼」だった。さらにエンディング・クレディットの四囲にガムラン調の曲に乗って乱舞するワヤン風の眼の群も「悪のネットワーク」の遍在を寓意するやに思われるが、ひよっとしたら「裏」があるのではないかと期待させるのが、「眼」と合衆国々民との関係である。合衆国々壘の「裏」の図柄は十三段のピラミッドで、頂上に「眼」が刻まれている。一ドル紙幣の「裏」に活用されている、この「眼」は「全てを見通す、神の摂理の眼」なのだ。オラフが渴望する「大いなる遺産」を一ドル紙幣に換金すれば、かれは既に天文学的数の「摂理の眼」照覧のもとに曝されていることになるのだから。

長野・十念寺住職



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では
読者の自由な参加をお待ちしています。
詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、
TVウォッチング、紀行文、その他創作等。
あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●前

〔特選〕嘘泣きの前歯一本春の雪

近藤啞々砂

歯が生える頃になるとだんだん知恵がついてきて、嘘泣きなどという事も覚えてくる。それは分かっている、親はつい赤子の顔をうかがって、何とか望みをかなえてやろうとする。あまえが始まる。

〔佳作〕語り部の前に膝寄せ秋日和

金谷 友江

ぺこちゃんの前に崩れし雪だるま

山口 東人

目の前に故郷の山牡丹雪

伊藤寿美子

●記

〔特選〕入学の記念樹芽吹き初めにけり 中島富士子

学校の一隅に植えたものだろう。子供の卒業式などで久しぶりに行くと、その木が芽吹きそめているのが目についた。その辺は読者

の創作に任されているが、読む者それぞれに
思いが広がってゆくに違いない。

〔佳作〕風邪に伏し空白ありし日記かな

山本美代子

齢積み薄きページの日記買う

河合富美枝

散るさくら記憶ばかりの高野山

山口 信子

●自由題

〔特選〕

蛸壺をこそそげて積みて春を待つ

井村 善也

蛸壺はすぐ貝が居着いてしまい、使ってい
るうちに外側をびっしり覆ってくる。今それ
を一つ一つこそげ取っているのだ。根気のい
る仕事だが、縄をつける前の大事な仕事であ
る。季節は近づいている。

〔佳作〕尻紙めて我紙める猫日脚伸ぶ

齊田 仁

春の雪運河の岸に舞う鴟

谷 しげ子

麓より野火立ちのぼる里の朝

浜口 佳春



浄土の広場

参加作品.....編集部選

前

仏前に告げる喜び冬の旅

堀 菅子

前掛けをきりりと春の弁当屋

山本美代子

前庭に佇てば芽の音父の声

周東 澄江

来し方をわが身に重ね雛の前

佐藤 雅子

しぐるるや忌の膳運ぶ弥陀の前

河合富美枝

記

絵日記に思い出多き春の午後

堀 菅子

榎の芽や記憶の欠けし一ところ

周東 澄江

初恋の記憶は臘春の夢

佐藤 雅子

草萌えて風土記の丘は子の広場

片桐てい女

惜春や白紙の続く日記帳

金谷 友江

赤き実の記念樹育ち春の鵲

河合富美枝

自由題

風鐸の幽かに揺れて小雪舞ふ

佐藤 雅子

本屋まで岸の桜を見て歩く

増田 信子

鳥雲に埴輪の剣に刀身なし

片桐てい女

春雲や遠山見えぬ利休の忌

金谷 友江

雪峠越えて雅の京かほり

安達 良昭

遅れ咲く梅一輪のなごみかな

河合富美枝

啓蟄や上州いまだ風荒く

中島富士子

ものの芽に一気に芽吹く弥生かな

中島 一子

句碑あると子等告げに来る梅日和

伊藤寿美子

猫柳岸辺の光り集めたり

石原 新

春浅し護岸工事の立看板

山口 信子

浄土誌上句会のお知らせ

題

②季語ではありません

中尾自由題

締切・二〇〇五年五月二十日

発表・『浄土』二〇〇五年七月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）

応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

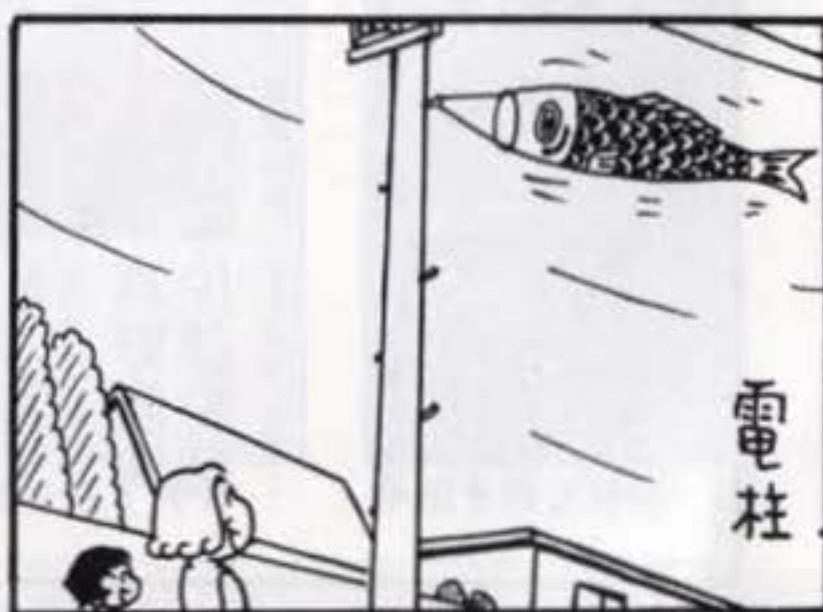
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

月刊『浄土』誌上句会係

さっちゃんはネッ

20 かい目

かまち♡ひろう



編集後記

春惜しむ猫と鳥のかくれんぼ

岱潤

近年子供の学力低下が叫ばれ、「ゆとり教育」の見直しを求める声が高まり、文部科学省では来年の中学生の教科書から、三年前に約三割を削減した学習内容の復活を表明した。いわゆる「脱ゆとり教育」の宣言であろう。

その前日『朝日新聞』が行ったアンケートの結果がおもしろかった。子供達に「競い合う心を持って世界のトップを目指す」という中山文部科学相のインタビュー記事を読んでもらったからのアンケートというものであったが、高校生の「何故世界のトップを目指す必要があるのか」「なぜ他国と比べなければならぬのか」「競争ばかりしていたのでは心

いのか」「競争ばかりしていたのでは心

を通じ合える友達が出来ない」など、心の叫びともとれる発言が目立ち、また先生達が「政策の是非は子供にはわからない」「勉強をせずにすむ方がいいと答えるのでは」などの発言に対して、「上を目指す自分にはゆとり教育には反対だし、遊びたい自分は賛成」「大人と協力して良い日本をつくれるなら厳しくなってもいい」など、自分自身を正直に多面的に見つめ、またどう見ても先生方より真摯である。

競争社会にどっぷりと浸かり、その価値観に洗脳されてしまっている大人達よりも、人間を商品価値ではなく人間としてみることが出来る子供達の眼の方が、二十一世紀にとってはおそらく大事なような気がしてきた。

(長)

雑誌「浄土」

特別会員、維持会員の方々

今月より賛助会員の方々も記させていただきます

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
江口定信(浦安・大蓮寺)
大江田博導(仙台・西方寺)
大田秀三(大本山・清浄華院)
北山大超(焼津・光心寺)
熊谷靖彦(佐賀・本應寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤成順(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
須藤隆仙(函館・称名寺)
袖山榮真(長野・十念寺)
高口恭行(大阪・一心寺)
田中光成(町田・養運寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村真道(仙台・愚鈍院)
野上智徳(静岡・宝台院)
樋口隆信(石巻・西光寺)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓爾(静岡・華陽院)
真野龍海(芝・天光院)
水科善隆(長野・寛慶寺)
宮林昭彦(大本山・光明寺)
宮林雄彦(横浜・大光院)
山田和雄(諏訪・貞松院)
(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://gekkan-jodo.info>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤晃道

佐山哲郎

青木照憲

村田洋一

編集顧問

大室了皓

浄土

七十一巻五月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十七年 四月二十日

発行 平成十七年 五月一日

発行人

編集人

真野龍海
佐藤良純

印刷所

株式会社 シーティーイー

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四・七・四 明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三三三七八)六九四七

FAX 〇三(三三三七八)七〇三六

振替 〇〇一八〇・八・八二八七



平成7年11月号



平成7年12月号



平成8年1月号



平成8年2月号



平成8年3月号



平成8年4月号



平成8年5月号



平成8年6月号



平成8年7月号



平成8年8月号



平成8年9月号



平成8年10月号



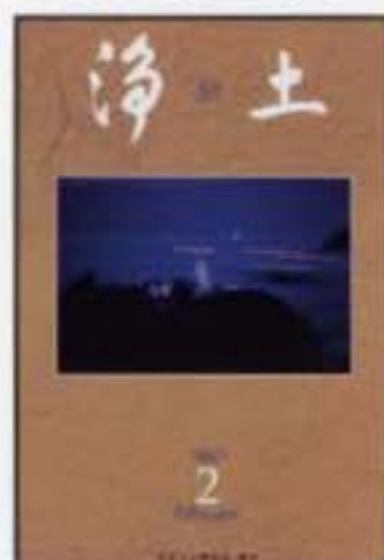
平成8年11月号



平成8年12月号



平成9年1月号



平成9年2月号

法然上人鑽仰会の

本



※額装寸法 47 × 59 cm



選擇集十六章之図(額入り)
「選擇集絵解き物語」含む
20,000円 (別途梱抱料300円)



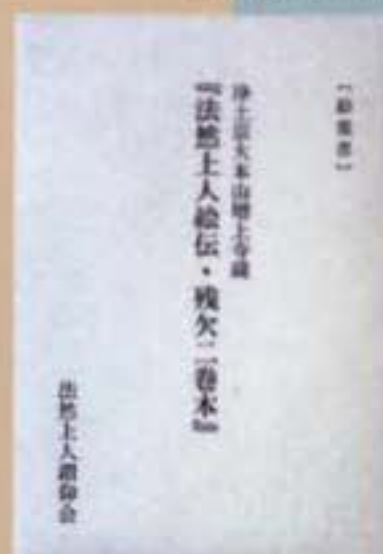
「差出人は法然さん」
600円



月刊「浄土」
バックナンバー



「法然上人絵伝絵葉書」
(8枚セット) 800円



委託販売

増補版「浄土への道
法然上人法語抄」
1,000円



「ブッダ
知れば知るほど」
1,000円



※浄土宗大本山増上寺蔵
「法然上人絵伝・残欠二巻本」より

当会発行の書籍、雑誌のお求めは、
当会へお申し込みください。なお、月
刊「浄土」を除き価格に送料は含まれ
ておりません。別途実費を申し受けます。

法然上人鑽仰会
電話 / 03-3578-6947
FAX / 03-3578-7036